



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

隗より始めよう！

七尾市公立能登総合病院
形成外科・美容外科部長 山城 薫

今年もサラリーマン川柳が発表されました。
過去作品も含めて数首ご紹介致します。

家庭編『湧きました 妻より優しい 風呂の声』『いい夫婦 今じゃどうでも いい夫婦』『「今帰る」妻から返信「まだいいよ』『忘れ物 昔はチューで 今はゴミ』…独身の私には羨ましい結婚生活なのに夢が持てないじゃないですか(涙) …

会社編『おつぼねを レジェンドと呼ぶ 給茶室』ドキッ『あこがれは 壁ドンよりも 机ドン』『「空気読め!!」 それより部下の 気持ち読め!!』『「課長いる？」 返った答えは「いません!』『「仕事やれ 人に言わずに お前やれ』…上司も部下も辛いんです…

定年老後編『オレオレと アレアレ増える 高齢化』『デジカメの エサはなんだと 孫に聞く』『女子会と聞いて覗けば 六十代』『ときめきは 四十路過ぎると 不整脈』…惚けてもかわいく惚けたい…最後の望みです…

さて、私は独身子無しにもかかわらず勤務する病院に女医が少ないため、石川県の女性医師メンターに選任され、結婚出産育児などでキャリアを継続する事が難しい女医問題を改善する立場にいます。働く立場的に言えば男性医師と変わらない勤務体制で働いており、いわゆる女医問題の弊害も受けています。また一方産む性として出産育児と医師の仕事の両立に悩む立場でもあります。簡単に言うと夫の気持ちも分かるし妻の気持ちも分かる(気がする)。女性が働き出産育児も行うとき、誰かの助けが無ければかなり困難なミッションになります。母、義母、夫、あるいはベビーシッター、家政婦さんもしくは社会全体で。先進国で唯一出生率が増加しているフランスは少子化対策に一世に渡り取り組み「子供は社会で育てる」という信念で問題を解決してきました。やっと少子化対策に取り組みだした日本の社会で女性が働きながら子供を育てられるシステムができた頃には私はこの世にはいないと思われそうですが、いつ始めるか?と聞かれるまでもなく今始めないと女性はますます苦しい立場に追いつめられます。女性が輝く、一億総活躍社会と言いながら、「保育園落ちた日本死ね!!」発言のように待機児童問題は未解決、子供が長じても老後の親の介護が待っていて国の政策は在宅へ移行している。女性を働かせ、産ませ、介護もさせ、どうやって輝けるのでしょうか? 省庁がバラバラの旗を振り誰も踊らず、「社会が育てる」なんて夢のまた夢。なーんて、大上段に構えて政策を批判したり女子会で愚痴を言っているもしょうがないので、小さな社会、医療界から始められないのでしょうか?

「日本医師会が育てる！」「日本医師会が看取る！」

なんだかとてもかっこいい！CMまで目に浮かんできそうです！

医療界は女性が支えていると言っても過言ではありません。看護師、栄養士、医療事務、薬剤師、検査技師は女性が占める割合が高く、近年では医師、放射線技師、療法士も女性が増えています。どの職種も女性がキャリアを継続するのに難渋し、また妊娠出産による本人にとっては不本意な離職・配置転換も多く病院運営上問題になっています。具体的なプランは色々な提案を待つにしても早急に併設保育園の開設、親の介護のために緊急避難的な職員家族用ベッドを用意するなど医療界が「ゆりかごから墓場まで」のモデルプランを政府の補助金付きでトライしてみてもいいのではないでしょうか？

医師も家に帰れば妻であったり、夫であったり、誰かの親であったり子であったり、サラリーマン川柳に同感する悲哀を抱えています。

「ほっとする 家の灯りと 妻の顔」

「寝顔見て いつも言えないありがとう」

こんなほのぼの系の川柳が詠めるように、日本医師会！ 期待しています！！

